

# 千代田区におけるビジネス環境と 持続的な事業展開



# “現代のサムライ(士業)”が集まる街、 麹町のビジネス環境

千代田区にはいわゆる“先生”とよばれる士業の事務所が集積しています。弁護士、公認会計士、税理士、司法書士、社会保険労務士といった国家資格を有したプロフェッショナルです。特に麹町地区にはさまざまな特徴を持った士業が集積しています。士業は千代田区を代表する業種とっていいかもしれません。

永年、麹町に事務所を構え、業界の動向にも詳しいTradeTax 国際税務・会計事務所東京第1事務所所長の柴田篤氏に会計・税務業界を中心としてお話をお聞きました。

## (1) なぜ麹町地区には士業が多いのか？

千代田区の麹町地区には中央官庁、裁判所、国会など法律、行政の中心が集まっているので、当然にそれに関連する士業の事務所は集まってきました。クライアントになにか問題や事件があればすぐに監督官庁や裁判所に駆けつけられます。

同じ士業の事務所が集まれば、競争も激しくはなりますが切磋琢磨され、情報交換や交流なども生まれてきます。また士業の事務所にとっての仕入・開発はなんといっても情報収集、知識やノウハウの獲得です。情報不足は士業の事務所にとっては命取り、即衰退を意味します。研修会や勉強会、説明会などが開かれるのは、全国的に見ても交通の便のよい麹町地区で開催されることが多いのです。とすれば事務所の立地も麹町地区が一番いいということになります。

クライアントの立場から見ればどうでしょうか。士業という業種についてのことですが、地方都市にあるクライアントは東京にある士業事務所に行くことを厭いませんが、東京にいるクライアントは地方都市にある士業事務所に行くのを億劫がるという傾向にあります。ということは、多くのクライアントを獲得するためには、クライアントが厭わず来やすい東京の中心地に事務所があったほうがいいという

ことになります。これも千代田区、中でも麹町地区に士業の事務所が集中している理由の一つであると思われれます。

## (2) 資格だけでは 食えない時代がやってきた

どの士業の事務所も基本的には収入が低下しています。我々会計・税務業界にもっとも大きな影響を与えているのは“IT化”ですと断言する柴田氏。IT化で会計にまつわる業務は劇的に減少しています。帳簿の入力、チェック、申告書の作成など従来の業務は減少し、その付加価値は低下の一方です。

平成7年と平成22年の国勢調査の職業別就業人口の変化を比較すると日本全国の会計事務従事者は100万人以上減少しているといわれます。また、オックスフォード大学で人工知能などの研究を行うマイケル・オズボーン教授が発表した論文「雇用の未来 コンピューター化によって仕事は失われるのか」の中で主な「消える職業」「なくなる職業」の中に、税務申告書代行者、簿記、会計、監査の事務員という職業、仕事を挙げています。発表当時業界に衝撃が走りました。完全になくなるとは思えませんが、減少傾向であることは間違いありません。

企業が資金調達難であった時代には、金融機関へ

の対応などで会計事務所は中小企業に大いに頼りにされたものでしたが、現在のように金融が緩和され、制度融資も積極的に行われるようになると、資金調達面での活躍の余地も少なくなっているようです。

このような時代にあって、会計・税務業界には2つの方向がある柴田氏は言います。

① 1つ目は経営コンサルティングを志向する流れ（税金を計算するだけでなく、どうやって利益を増やせばいいかという方向でのクライアントのニーズに対応）

② 2つ目は、資産課税に対して専門的なサービスを提供しようとする流れ（国税当局が強化してきている資産課税への対策、防衛へのニーズに対応）

資格をとれば飯が食えるという時代は終わったようで、士業の世界でも競争は激化し、各事務所が専門領域や規模拡大を図り、戦略的経営の時代に突入したようです。

ちなみに柴田氏の事務所では国際税務やM&Aを得意分野とし、大企業、国・都道府県・市町村、中堅・中小企業に対しての海外展開をサポートしているそうです。15年前、海外税務というと世界規模での会計事務所ビッグ4ぐらいしかなかった時代から国際税務を専門分野として実績を積み上げてきたわけです。

### (3) ビジネスからみた 麹町地区の特徴とは

麹町に事務所を構え、長年この地区のビジネスを見てきた柴田氏ですが、麹町地区には以下のような特徴が顕著であると言います。

① 外国の出先機関、海外企業が多い

大使館や在日商工会議所など外国の出先機関が多く、貿易や海外投資を行う企業が集まっている。外国人駐在員を対象としたマンションや店舗も多い。

海外の企業の日本本社も多い。数年前までは有名海外ブランド企業が区外に本社を移すことが多かったが、最近はまだ戻ってくるケースが多く、やはり海外企業にとってはこの地区は活動しやすいのではないかと柴田氏。

② 土地の活用効率は高くない

世界レベルで行くと土地の活用効率は高くないと

言われているそうです。規制緩和が進めば、麹町地区は世界中の投資家が注目する場所になる可能性があります。

③ 品位が高く紳士的な麹町の経営者気質

ビジネス環境として非常に高い可能性を秘めている麹町地区ですが、麹町を地元とする経営者や地主はガツガツ商売をするという気質は少なく、品位が高く、紳士的な人が多いといえます。

反面、商売の面では保守的である部分もあるとも言われています。この地区はバブル経済の崩壊で痛手を蒙った人も少なくなく、その後遺症がまだ残っているかもしれません。

④ 国際的ホテルの存在

帝国ホテル、ホテル・ニューオータニ、そして現在建て替え中で夏にはオープン予定である赤坂プリンスホテルなど世界的なホテルがあり、国際的な会議や観光の拠点となっています。

⑤ 日本でも屈指の高級住宅地

麹町地区はビジネス環境が良いだけでなく、日本でも屈指の住宅地を有し、落ち着いた都市空間をつくり出しています。海外生活の永い柴田氏でもニューヨークやロンドンの出張から麹町に帰ってくると街並みの清潔さ、緑の多さにホッとするといいます。

また、そのような住宅地のハイレベルの人々を対象としたビジネスが展開できるのもこの地の特徴です。

⑥ 観光資源は非常に豊富

皇居、国会議事堂、最高裁判所、国立劇場、庭園や公園など観光資源は豊富です。外国人にとっては非常に興味ある地区だと思いますよと柴田氏。仕事や会議で来るだけでなく、観光開発も可能性を秘めているようです。

皇居の周りを走るランナーに向けたランナーステーションや銭湯が依然人気ですし、最近では郊外から自転車で通勤するビジネスマン向けのシャワー付き自転車預かり所というビジネスもあると言います。

### (4) 本格的な国際化の波を 真っ先にかぶる

千代田区の街づくりは他の区や地方都市と比較して考えるのではなく、ニューヨーク、ロンドン、パリ、

香港、シンガポールといった主要都市と比較して世界レベルで考えないといけないと柴田氏は言います。世界中も千代田区を日本や東京を代表する場としてみているのです。TPPの影響（規制緩和と規制強化）を真っ先に受けるのも東京の中でもこの地区だと言います。

- ① “千代田（CHIYODA）” というブランドをもっと世界に向けて発信すること、千代田区は日本のお手本だ。
- ② 土地の有効利用度を上げて効率を上げること（海外投資家からは土地の活用が非効率であると見られている）

- ③ 通りや道路の標示、案内をもっと詳しく、そして最低でも英語表示すること
- ④ レストランやホテル、観光地など外国人にも分かる表示や写真を入れること
- ⑤ 街として外国人、観光客を受け入れる体制をつくること（土日に飲食する場所が少ないのも課題）

日本水産株式会社という民間企業の貿易業務からスタートし、一貫して国際税務、国際会計に携わってきた柴田氏からの提案は千代田区という地域の将来に大きなヒントを与えています。

